

別記様式2-2号

視 察 研 修 等 報 告 書



令和7年6月22日

坂井市議会

議 長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 チャレンジさかい

報 告 者 三宅小百合

1. 日 時 令和7年5月17日(土)～5月18日(日)2日間
※令和7年6月18日(水)オンライン配信開始
2. 視察研修先 オンラインによる参加
(成城ホール 東京都世田谷区成城6-2-1)
3. 視察研修内容 「アウトリーチ支援 制度の切れ目や世帯全体の複合的な課題を
考える～若者支援、世代をまたぐ支援など～」

「アウトリーチ支援 孤立をめぐる地域課題を考える
～借りられない住まい、セルフネグレクト、ゴミ屋敷など～」
4. 参加者 三宅小百合
5. 内容詳細
 - ① アウトリーチ支援 制度の切れ目や世帯全体の複合的な課題を考える
～若者支援、世代をまたぐ支援などについて

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）から見えてくること」
講師：藤井千代氏
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）」と「重層的支援体制整備事業」から、それぞれが目指す方向性と取組みから見えてくることは、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう障害福祉計画に基づき、障害福祉保健圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村などとの重層的な連携による支援体制を構築することである。制度に該当しない対象者をサポートする仕組みが大切である。

② アウトリーチ支援 孤立をめぐる地域課題を考える

借りられない住まい、セルフネグレクト、ゴミ屋敷などについて

講師：朝比奈ミカ氏

市川市よりそい支援事業「がじゅまる+」（多機関協働等）

市川市生活サポートセンター「そら」（自立相談支援事業等）

朝比奈氏が代表を務める「がじゅまる」「そら」は、平成 16 年に開設された県独自の相談支援事業で、障がいの有無や年齢に関わらず全ての人を対象に、24 時間 365 日体制で支援を行っている。県内には 16 拠点があり、日頃から連携・情報交換を行い、支援の質の向上に努めている。財政的には厳しく、委託費では運営が困難な現状や、行政の縦割りによる連携の難しさも課題である。引きこもりや若年貧困など制度の狭間にある人々を地域資源とつなぎ、孤立する若者の支援が求められている。

6. 所感・感想

重層的支援体制を整えていても、制度から外れてしまう対象者がいる。また支援できるサービスにつないでも満足が得られない場合がある。そして困っているにもかかわらず、どこに相談すれば良いか分からずに孤立してしまう若者がいる。必要な人に必要な情報とサポートと支援がつながるヒントを先進事例から学ぶことができたが課題の多さも痛感したことから、本市の重層的支援体制をさらに充実したい。

7. 添付書類

講演資料